

武雄市の水洗化と負担公平化へ大前進

古庄市長「市設置型の浄化槽整備」着手を決断!

“あなたの家も、すぐに水洗トイレに”

浄化槽市町村整備事業

まず、「浄化槽市町村整備事業」が、どんなものか、を簡単に説明すると、これまで、公共下水道の未計画地区では、個人が、浄化槽を設置し、費用約120万円の内、国県市が、各20万円づつを補助し個人は、約60万円を負担していた。それを、市の財産として設置し、市民は、公共下水道と同等の10万円程度の低い個人負担で設置し、管理も市が行なうもの。

H15年4月の法改正で、武雄市でも実施可能になってきた。その年の、環境特別委員会の行政視察で知り、9月議会で、武雄市での導入を提案しました。

古庄市長は、当初より、「早急に検討する。」と前向きな答えでしたが、下水道計画(マップ)の見直しの中で、決定するとの説明。一方、H16年度からは、生活環境課の浄化槽、農林課の農排(農村地区の下水道)都市計画課の公共下水道も、下水道課に一元化され、早急に見直しが進むものと期待してまいりました。

しかし、一年以上も、検討中、検討中との答えの繰返しでした。私が、理由を推測するところ、市設置型の浄化槽導入は、ある意味、今行っている、公共下水道や農排の非効率性や各処理方式による市民負担の不公平を自ら証明することに繋がりが、色々な自己矛盾が表面化すること。

また、財政サイドからは、これ

栄八通信

ハートコミュニケーション

第24号



147 10 月末発行
 武雄市議会議員
宮本 栄八
 TEL・FAX 23-0750
 携帯 090-5083-0793

まで、個人設置で、進んで来たのを市設置に変更すると、これからの浄化槽設置の負担に加え、これまで、個人で設置された、1、300基の管理も、将来、市で対応せねばならない可能性があるなど、「寝た子を起すな」という意識が、下水道課・財政課からも感じ、このままでは動かないと思った。

そこで、今回、古庄市長に、政治決断を示してもらい、問題の解決をはかろうと考えた。

そこで技術的・事務的な質問はせず、「武雄市が、水洗化の基本を浄化槽としているのに、個人のみ推進させ、市がしない矛盾。また、公共下水道などの整備区域による、市民負担の不等。さらに、合併する山内町は、全世界が町の農排で整備との不均衡。」の点を論点として浄化槽市町村整備推進事業の実施をたずねた。

今回、古庄市長は、あまりに、簡潔・明解な答えで、実施を明言されたので、失礼と思うが、逆に本意なのか、不安にも思った。

翌日、同様の質問を提出されていた、公明党松尾議員が、もう一度市長に、確認の質問をされて、実施の意志を再確認した。市長の決断に感謝する。

また、決断すれば、H18年度から、着手するとの話だったので、早く住民への説明をして欲しい。

一方、市の管工事組合からは、さっそく、この事業を、PFI(民間事業)として、引き受けたとの陳情書も提出されている。

公共下水道の建設状況と今後

当面32haを22年度整備

武雄市の公共下水道計画を、もう一度おさらいしてみます。

「武雄市下水道等構想」(下水道マップ)によれば、武雄町と朝日町が範囲ですが、そこが、武雄町北部をI地区、同南部をII地区、朝日町(川良一部)をIII地区と分けてあり、整備順位は、I→II→IIIと予定されています。

しかし、正式に、都市計画決定してあるのは、I地区の183haを、H15からH44年度まで30年かけて整備をする計画です。

ただ、今回、事業認可を受けて工事をしているのは、駅と松原と温泉を結ぶ三角形の32haを、H22年度まで7年かけて整備するもの。なお、松原の区画整理に間に合わせ、2年後のH19年末には一部使用開始できるように急ぐ。

32haの、予算は、32億円で、利用者、1、300人と見ている。現状は、ミニ下水道で農排並み。

武雄市の人口のわずかに4%。

工事の予定と現況

処理場15億円・管布設17億円

工事の状況について、説明すると、大きく、処理場建設15億円・管布設17億円に二分している。

【処理場】
 東部開発の南側に、I地区分約2haの用地を、2億6千万円で、購入し、現在、土入れ整備中。

一方、処理施設の建設については、「日本下水道事業団」と契約し、そこが各建設業者を入札させて工事を進める。いわば、市職員の代りに、事務を代行するもので、自治体や国が出資する唯一の組織。鹿島市や嬉野町も利用している。

最近、業者にも厳しく低い入札も多い。処理機械など、市外業者分は、安いにこしたことはなく歓迎する。

杵藤クリーンセンター漏水問題の経験から、この処理場の保証についても、委員会で論議があったが、通常の建設工事によくある、本体2年、機械10年の保証とすること、結局発注する市が、「注意せんといかん」との結論。ところで、処理場は、15億円を予定するが、今回、事業団とは、半分の7億5千万円で契約した

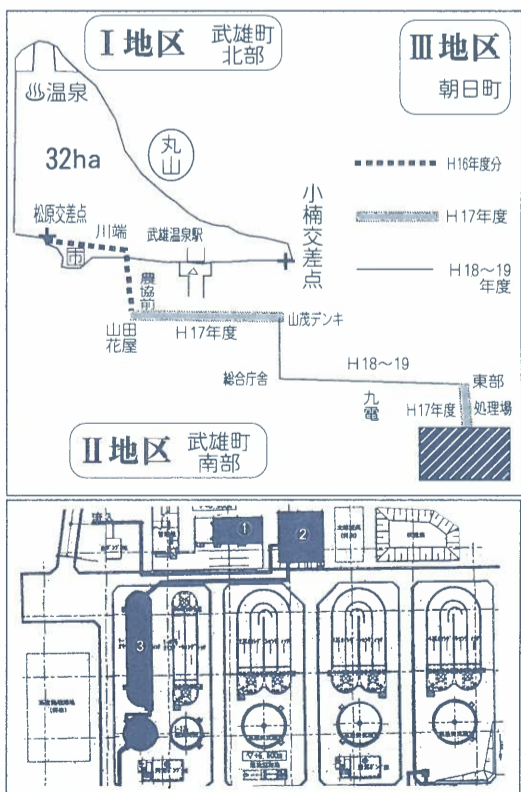
が、理由は、処理槽600m³を1施設だけ作る予算としたため、最初は加入者が少ないとの判断からと言う。

処理方式は、建設費の安い方式オキシデーションディッチ法と言って、コンクリートのプールの中をし尿をぐるぐる回して、酸素を通して、浄化するもので、故障も少なく維持費も安い。ただ、露出しているの、見映えが悪いとの指摘もありフタをしようとする。

【管渠整備】
 管には、「本管」と、それから家庭の公共マスに続く「取付管」があり、「本管」はH16年度、繰り越分で高架区画事業に合せて、農協前と川端通りに布設している。17年度に、山田花屋付近から、山茂デンキ付近までと、処理場から東部まで。H18、H19年度に残りを接続して、川端地区付近の一部を、供用開始する。

この本管は、3m以上埋めなければならぬので、開削と言って、上から埋るやり方でなく、推進工法と言う、大きい立て穴を掘り、トンネル工事のように掘り進み直径30、60cmの管を入れて行く方法でやっているが、地元機械を持つ業者も少ないので、市内業者が下請けを使いながら工事している。

個人型	個人負担	市	県	国
	60	20	20	20
市設置型	個人	市	国交付税	国
	10	35	35	40



処理場の図面は、I地区183ha分、今回、色ぬり部分、①電気室、②汚泥室 ③オキシ浄化槽を造る。
 ③はU字型1基1,200m³/日処理し、32ha分は、U字2基2,400m³/日が最終目標。しかし、当初加入戸数が少ないと見て、U字を二分割し、I字型600m³/日のみ建設。

県立高校再編で子供の教育環境はどうなる？

県教育委員会の再編案の概要

県が、西部地区(伊万里・有田・杵藤地区)内に、県立の中高一貫校を作り、また、商・工業高校を統合する。二つの計画がある。

武雄市に、直接関係するのは、前者である。

武雄高校5クラスと青陵高校3クラスの計8クラスを統合して、新高校は、1減の7クラスにする。

新高校は、現武雄高校の場所、一貫の県立新中学校を現在の青陵高校の場所とし、4クラスとする。

実施は、2年後の平成19年度から開校される予定。

私は以前より、中高一貫を高校受験を気にせず、部活や自分のやりたい勉強ができることなど、宮崎県の五ヶ瀬で取り組まれた、数年前から、注目していた。

しかし、ご存知の通り、市民の多くが不安に思っているのは今回再編計画で、市の教育環境が現在より低下する心配からである。

中高一貫校導入に伴う問題点

①【普通高校の消滅】の問題
市内2校の普通校が統合で無くなり、一番近い普通校は、白石高校で、現在でも、交通の便が悪くほとんど、市内からの通学は無い。他一貫予定校の状況は、鳥栖新高は、三養基・神崎高も近く、唐津東高は、唐津西など近くに普通高があり、明らかに選択肢は拡大しているが武雄市は不便になる。

②【杵島商業高校の廃校】の問題
もともと杵島商は、武雄高の分校から出発し、武雄市に一番近い

3クラスで、募集を広げれば、白石高校のように、8割を地元中の生徒になる可能性は大きい。また、3クラスになったが、現在、部活の数は減少してなく、県の言う部活が云々は、机上空論。

⑦【高校からの外様入学】の問題
中高一貫校の目的は、中学から高校と同じ生徒が継続的に学ぶのを目的にするのであるが、7クラス中、4クラスだけが中高一貫で残り3クラスは、高校受験をして途中から入る型のため、中高一貫校なのに、3割以上は、学校の本来の目的を享受できない。本流でない、外様の状況になる心配。

⑧【西部学区の全体見直し】の問題
高校再編は、少子化による生徒数の減少による統合との説明だが、西部学区の生徒の減少は、白石・鹿島地区が原因である。また現に、白石高校・鹿島高校・太良高校、すべて普通科は、H17年度、募集定員割れだったのに、まったく手がつけられてなく、不公平はなはだしい。

⑨【新高校7クラス募集】の問題
現在、武高5・青陵3の計8クラス、西部学区の生徒数は、2、902人で、統合されるH19年には2、907人へと減るところか、逆に増えるのに、新高校は、7クラス募集で、1クラス減らすなど、言いが一致せず、県教育委員会が地元の教育状況を真に理解しているようには思えない。

⑩【新高校7クラス募集】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

⑪【青陵統合の不合理】の問題
青陵高校を、統合して、市内から、普通高校がなくなる理由として、3クラスでは、生徒の切磋琢磨や部活の展開が困難になるとの判断だが、今年度より、青陵は3クラスだが、募集をしばったから

⑫【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

⑬【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

⑭【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

⑮【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

⑯【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

⑰【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

⑱【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

⑲【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

⑳【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

㉑【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

㉒【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

㉓【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

㉔【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

㉕【青陵統合の不合理】の問題
以上の問題点があり、一言で言えば、「今回、中高一貫校の導入は、従来の中学校・高等学校に加えて、選択肢を拡大する。」との方針が、武雄地区では、拡大になってないとの見方からである。

して削減しようとする意図。
②私立中高一貫校のように、優秀な人材を集めて、県の学力アップにつなげたいとの思いではないだろうかと推測する。

私は、この二つの方針について賛同こそすれ、反対する者でない。この方針から、具体案を作る時に、地元住民と十分に話し合われずに、計画が発表されたことが、井本前知事が、急がず十分に検討せよ。また、古川知事も、県民に広く説明するようにとの発言にもつながったと考える。

そこで、私としては、中高一貫校の導入を前提に、問題点の解決をすべく自分なりに、頭をいため毎回、一般質問において、市教育委員会や教育長。さらに、市長が積極的に、問題解決に乗り出してもらうよう、お願いしていますが、ご存知のように何ら動いてもらえません。

以前は、青陵高校同窓会や、子どもの側から教育を考える会の方が、何とか市の教育環境を低下させないよう、市や教育委員会に、対話や提案をされていましたが、市が動かない為に、今は、ただ、H19年度の実施に向けて、時間だけが、過ぎて行く状況。

たぶん、H19年度から実施なので、H18年7月には、すべてが固まると思われる。だから、9の問題点は、この一年以内に行動し解決しなければ、今後長期間、不便な思いをすることになる。

本心を言えば、県の問題で、県議員の方に、自分の考えを明確にしてもいい、県議会でも、市民にも伝わる議論をして欲しい。

また、小・中のPTA・育友会も、バザーや教育講演会も良いが今回の高校再編についても話し合っ

て、子供の為に行動して欲しい。私は、武雄市や市教委に、もっと地域の教育をあげる者として

の責任と努力をうながし、他人ご

とをしようとする意図。

②私立中高一貫校のように、優秀な人材を集めて、県の学力アップにつなげたいとの思いではないだろうかと推測する。

私は、この二つの方針について賛同こそすれ、反対する者でない。この方針から、具体案を作る時に、地元住民と十分に話し合われずに、計画が発表されたことが、井本前知事が、急がず十分に検討せよ。また、古川知事も、県民に広く説明するようにとの発言にもつながったと考える。

そこで、私としては、中高一貫校の導入を前提に、問題点の解決をすべく自分なりに、頭をいため毎回、一般質問において、市教育委員会や教育長。さらに、市長が積極的に、問題解決に乗り出してもらうよう、お願いしていますが、ご存知のように何ら動いてもらえません。

以前は、青陵高校同窓会や、子どもの側から教育を考える会の方が、何とか市の教育環境を低下させないよう、市や教育委員会に、対話や提案をされていましたが、市が動かない為に、今は、ただ、H19年度の実施に向けて、時間だけが、過ぎて行く状況。

たぶん、H19年度から実施なので、H18年7月には、すべてが固まると思われる。だから、9の問題点は、この一年以内に行動し解決しなければ、今後長期間、不便な思いをすることになる。

本心を言えば、県の問題で、県議員の方に、自分の考えを明確にしてもいい、県議会でも、市民にも伝わる議論をして欲しい。

また、小・中のPTA・育友会も、バザーや教育講演会も良いが今回の高校再編についても話し合っ

て、子供の為に行動して欲しい。私は、武雄市や市教委に、もっと地域の教育をあげる者として

の責任と努力をうながし、他人ごとをしようとする意図。

②私立中高一貫校のように、優秀な人材を集めて、県の学力アップにつなげたいとの思いではないだろうかと推測する。

私は、この二つの方針について賛同こそすれ、反対する者でない。この方針から、具体案を作る時に、地元住民と十分に話し合われずに、計画が発表されたことが、井本前知事が、急がず十分に検討せよ。また、古川知事も、県民に広く説明するようにとの発言にもつながったと考える。

そこで、私としては、中高一貫校の導入を前提に、問題点の解決をすべく自分なりに、頭をいため毎回、一般質問において、市教育委員会や教育長。さらに、市長が積極的に、問題解決に乗り出してもらうよう、お願いしていますが、ご存知のように何ら動いてもらえません。

以前は、青陵高校同窓会や、子どもの側から教育を考える会の方が、何とか市の教育環境を低下させないよう、市や教育委員会に、対話や提案をされていましたが、市が動かない為に、今は、ただ、H19年度の実施に向けて、時間だけが、過ぎて行く状況。

②私立中高一貫校のように、優秀な人材を集めて、県の学力アップにつなげたいとの思いではないだろうかと推測する。

私は、この二つの方針について賛同こそすれ、反対する者でない。この方針から、具体案を作る時に、地元住民と十分に話し合われずに、計画が発表されたことが、井本前知事が、急がず十分に検討せよ。また、古川知事も、県民に広く説明するようにとの発言にもつながったと考える。

そこで、私としては、中高一貫校の導入を前提に、問題点の解決をすべく自分なりに、頭をいため毎回、一般質問において、市教育委員会や教育長。さらに、市長が積極的に、問題解決に乗り出してもらうよう、お願いしていますが、ご存知のように何ら動いてもらえません。

以前は、青陵高校同窓会や、子どもの側から教育を考える会の方が、何とか市の教育環境を低下させないよう、市や教育委員会に、対話や提案をされていましたが、市が動かない為に、今は、ただ、H19年度の実施に向けて、時間だけが、過ぎて行く状況。

たぶん、H19年度から実施なので、H18年7月には、すべてが固まると思われる。だから、9の問題点は、この一年以内に行動し解決しなければ、今後長期間、不便な思いをすることになる。

本心を言えば、県の問題で、県議員の方に、自分の考えを明確にしてもいい、県議会でも、市民にも伝わる議論をして欲しい。

また、小・中のPTA・育友会も、バザーや教育講演会も良いが今回の高校再編についても話し合っ

て、子供の為に行動して欲しい。私は、武雄市や市教委に、もっと地域の教育をあげる者として

の責任と努力をうながし、他人ごとをしようとする意図。

②私立中高一貫校のように、優秀な人材を集めて、県の学力アップにつなげたいとの思いではないだろうかと推測する。

私は、この二つの方針について賛同こそすれ、反対する者でない。この方針から、具体案を作る時に、地元住民と十分に話し合われずに、計画が発表されたことが、井本前知事が、急がず十分に検討せよ。また、古川知事も、県民に広く説明するようにとの発言にもつながったと考える。

そこで、私としては、中高一貫校の導入を前提に、問題点の解決をすべく自分なりに、頭をいため毎回、一般質問において、市教育委員会や教育長。さらに、市長が積極的に、問題解決に乗り出してもらうよう、お願いしていますが、ご存知のように何ら動いてもらえません。

以前は、青陵高校同窓会や、子どもの側から教育を考える会の方が、何とか市の教育環境を低下させないよう、市や教育委員会に、対話や提案をされていましたが、市が動かない為に、今は、ただ、H19年度の実施に向けて、時間だけが、過ぎて行く状況。

たぶん、H19年度から実施なので、H18年7月には、すべてが固まると思われる。だから、9の問題点は、この一年以内に行動し解決しなければ、今後長期間、不便な思いをすることになる。

本心を言えば、県の問題で、県議員の方に、自分の考えを明確にしてもいい、県議会でも、市民にも伝わる議論をして欲しい。

また、小・中のPTA・育友会も、バザーや教育講演会も良いが今回の高校再編についても話し合っ

て、子供の為に行動して欲しい。私は、武雄市や市教委に、もっと地域の教育をあげる者として

の責任と努力をうながし、他人ごとをしようとする意図。

②私立中高一貫校のように、優秀な人材を集めて、県の学力アップにつなげたいとの思いではないだろうかと推測する。

私は、この二つの方針について賛同こそすれ、反対する者でない。この方針から、具体案を作る時に、地元住民と十分に話し合われずに、計画が発表されたことが、井本前知事が、急がず十分に検討せよ。また、古川知事も、県民に広く説明するようにとの発言にもつながったと考える。

そこで、私としては、中高一貫校の導入を前提に、問題点の解決をすべく自分なりに、頭をいため毎回、一般質問において、市教育委員会や教育長。さらに、市長が積極的に、問題解決に乗り出してもらうよう、お願いしていますが、ご存知のように何ら動いてもらえません。

以前は、青陵高校同窓会や、子どもの側から教育を考える会の方が、何とか市の教育環境を低下させないよう、市や教育委員会に、対話や提案をされていましたが、市が動かない為に、今は、ただ、H19年度の実施に向けて、時間だけが、過ぎて行く状況。

たぶん、H19年度から実施なので、H18年7月には、すべてが固まると思われる。だから、9の問題点は、この一年以内に行動し解決しなければ、今後長期間、不便な思いをすることになる。

とのような姿勢を改め、独自の案を作り、県と調整して欲しいと思う。

①中学入学において、くじ引きはせず、最適の者から入学させる。

②中高一貫校は、中高とも5クラスとし、外様入学はせず、あくまでも、中高一貫の利点を追求する。

③普通高校は、白石高校では、交通が不便なため、青陵を武高とではなく、杵島商業と統合し、普通校に商業電算コースを加え、JR佐世保線沿線に作る。

④中高一貫校は、同一敷地に作る。以上のような、提案ですが、市民の方は、どう考えられますか？

牛津は、県と話し合い、計画を変更しました。武雄市も、この一年が勝負、何か一つでも、デメリットを克服し、市の教育環境を良くしたいと思いませんか？

①中学入学において、くじ引きはせず、最適の者から入学させる。

②中高一貫校は、中高とも5クラスとし、外様入学はせず、あくまでも、中高一貫の利点を追求する。

③普通高校は、白石高校では、交通が不便なため、青陵を武高とではなく、杵島商業と統合し、普通校に商業電算コースを加え、JR佐世保線沿線に作る。

④中高一貫校は、同一敷地に作る。以上のような、提案ですが、市民の方は、どう考えられますか？

牛津は、県と話し合い、計画を変更しました。武雄市も、この一年が勝負、何か一つでも、デメリットを克服し、市の教育環境を良くしたいと思いませんか？

①中学入学において、くじ引きはせず、最適の者から入学させる。

②中高一貫校は、中高とも5クラスとし、外様入学はせず、あくまでも、中高一貫の利点を追求する。

③普通高校は、白石高校では、交通が不便なため、青陵を武高とではなく、杵島商業と統合し、普通校に商業電算コースを加え、JR佐世保線沿線に作る。

④中高一貫校は、同一敷地に作る。以上のような、提案ですが、市民の方は、どう考えられますか？

牛津は、県と話し合い、計画を変更しました。武雄市も、この一年が勝負、何か一つでも、デメリットを克服し、市の教育環境を良くしたいと思いませんか？

①中学入学において、くじ引きはせず、最適の者から入学させる。

②中高一貫校は、中高とも5クラスとし、外様入学はせず、あくまでも、中高一貫の利点を追求する。

③普通高校は、白石高校では、交通が不便なため、青陵を武高とではなく、杵島商業と統合し、普通校に商業電算コースを加え、JR佐世保線沿線に作る。

④中高一貫校は、同一敷地に作る。以上のような、提案ですが、市民の方は、どう考えられますか？

牛津は、県と話し合い、計画を変更しました。武雄市も、この一年が勝負、何か一つでも、デメリットを克服し、市の教育環境を良くしたいと思いませんか？

①中学入学において、くじ引きはせず、最適の者から入学させる。

②中高一貫校は、中高とも5クラスとし、外様入学はせず、あくまでも、中高一貫の利点を追求する。

石丸県議の再編へのコメント (H15) 私と同じ考えなので紹介します！

県教委は地元の教育委員会の意見をきちんと聞くべきだということである。地元の教育委員会は、地元としての今回の再編計画に対して自主的な意見を持ち、それを明らかにしなければならない。「県教委の対応を見守る」というような姿勢では、地元教委の責任を放棄しているのと同じである。近年、教委の存在意義を問う見解が表明されたりしているのが、今回の再編計画の進め方は、教育委員会の存在意義を問う問題である。



見学は、いつでも可能と言うが図書館に展示できないものか？

私の質問と市の答弁

1 合併問題

① 特例債事業の選定方法

特例債目当ての、かけこみ合併の声も聞く。だから、合併の成否を決めるのは、特例債の使い方だと思ふ。前回、市長は、もう特例債事業は、各自治体から提出し、すり合せをしているとの発言だが、そこを明確にしてほしい。

また、市民の意見の取り入れは、

【市長答弁】

特例債の事業は、新市になってから決められる。

※前回の答と大きく変わっている。まさか、密かにすり合せ、新市になっていきなり発表されるのではないかと、不安をいだいた。

2 保健・福祉問題について

(省 略)

① 次世代育成計画の実施時期を明確に示せ

今回、少子化対策、子育て支援として、全国的に、また武雄市でも5年間の実施計画が作られた。ただ心配なのは、これまで、エンゼルプランが、2回も作られているが、計画だおれしている。今回は、特に施策が多いので、5年間の年次計画を作成し、着実に

に実行して欲しい。

【中原民生部長】
年次計画を、作って実施する。

② 市民農園の利用料金が、今年度3、600円から、いきなり5、400円に値上りした。この事業はたっしゅかプランでも市民の健康作りの事業に上げている。

今回、かかった費用を、すべて利用料でまかなう計画での値上げだが、前の料金でも土地の借賃はまかなえている。そこで、健康づくりは継続が大切なので、継続契約の場合、割引き等できないか？

【大庭経済部長】
利用者に負担していただく方針で、継続割引きはしない。

③ 市役所の昼休み時の照明とパソコン

医食同源の観点から行けば、食事中の10分程度は、照明をつけておいた方が良いのでは？。反対に、つけっぱなしのパソコンの電源を切る事が電磁波の関係から健康に良いのではないかと？

【岩谷総務部長】
(そのように) 取り組む。



ずらりと並ぶパソコン。市では、一般職に約250台配置。

④ 献血の情報の提供を

献血は、人助けになると同時に本人の健康チェックにもなる。ただ、献血情報は、主催団体からであったり、血液センターも、

間近かになってから連絡がある。そこで、市が情報を一元的に把握して、市民に知らせたい。

【中原民生部長】
血液検査結果など分り、健康チェックにもなる。市報・市ホームページで献血情報を出して行く。

3 環境問題

① 下水道マップ見直しと市民意向の反映

(省 略)

② 市街地の溝の汚泥回収を

水洗化の遅れから、生活排水の汚泥が、上流の地区外から流れて、勾配が少ない所に溜まっている。その近くの家には、責任はない。市でバキューム車を手配して汚泥を回収できないのか？

【中原民生部長】
地区の、区役等で処理して欲しい。

※コメント

他議員からの、類似の質問があり、農村部では、さらった土が道路を通りまくっている。市が回収してほしいとの意見。また南部市街地では、側溝が深くさらえないとの問いに、都市下水道は市の管理で、市が浚渫回収するとの答で、下流まで流せば市が回収する妙な形が現実のようだ。

③ ゴミ袋の広告で、費用軽減を

新市では、ゴミ袋料金が安くなる、しかし、ゴミ処理費が、安くなったわけではなく、市の持出しが多くなっただけである。そこで、新市になれば、新しいゴミ袋が大量に作成されると思うので、佐賀市のように広告を取って、いくらからでも、再値上げを防いで欲しい。

【中原民生部長】
広告を取る為の、事務等の準備を進めたい。

4 商工観光行政について

① さぎの森広場を無料駐車場に

前回、市長は、さぎの森広場を市が利用しない時の開放は可能と言われ、大変感謝している。では、具体的に、日田市は、3ヶ所の無料市営駐車場を確保している。市も、さぎの森広場を近い将来廃止するのであれば、その間でも、無料駐車場として、外来者が来やすくして欲しい。

【市長答弁】
地域の人たちと、話し合いをしる。

② 松原交差点の信号機設置を

私は、高架切替と同時に、観光客などが安全確認のしにくい松原交差点に、信号機が設置されると思っていたが、調べて見ると、交差点の道路が確定し、後に信号機の設置になるとのこと。交差点4方面の改良の終了は、10年先とも予想される。そこで、待てないので、仮設信号機の設置を県の公安委員会に申し入れて欲しい。

【古庄市長】
鉄道切替えと同時に、仮設信号が設置されるよう申請する。



観光客用の利便性向上のため、信号機ならびに温泉新道改良が必要。

5 教育問題

① 高校再編の教育長の考え

(省 略)

② 学校教師の物販代行のあり方

教師が多忙なため、じっくり子供を見ることが、2学期制が導入された。一方、教師が、楽器・書道の道具・水着など、物販の代行

をされているが、本来教師のすべき必要のない物販は、業者に直接販売させるべきと思う。

【庭木教育長】
7月の校長会で、議題に上げる。

③ 武雄小の内部塗り替えて児童の気分向上を

武雄小は、御船小と10数年前に分離する時には、校舎の大規模改造がされたと聞いていた。私は、朝日小のように、全面改装したと思いきんでいた。しかし、呼び方は、共に大規模改造であるが、武雄小の場合、主な工事は、不用校舎の解体と、玄関の改築のみで内部には手がついていない。

また、東川登小、西川登小、合併すれば、山内西小体育館・山内中などの改築も予想されて、10年

市長提案議案

◎ 住民基本台帳の閲覧に関する条例改正

4月に、個人情報保護法で、行政や会社での管理は、一応整った。ただ、別の住民基本台帳法を使えば、他人の住所等を見ることが可能であった。そこで、今回、市の条例では、ダイレクトメールや販売目的での閲覧(見る)と2人以上以上の閲覧を禁止した。

◎ 学校の耐震診断

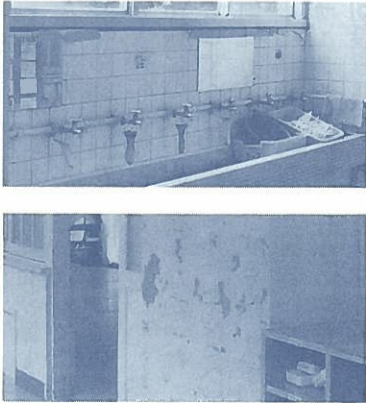
前から、計画していたが、3月の福岡西方沖地震の発生もあり、昭和56年の新耐震基準の前の施設の調査を行なう。耐震は、阪神大震災の時の、震度5に対応できるかの基準。武雄小の校舎と体育館、西川登小校舎、また、武雄中の校舎と体育館、武雄北中の校舎の6施設を約1千万円(1千017万円)で調査。

◎ 白岩球場バックスクリーン改修

昭和50年に設置したが、支柱老朽化で、2月に壊れていた。私は、点数表示のスコアボードと、バックスクリーンは、一体のものと思っ込んでいたが、別の物で、緑色の板状であるが、これを作りなおす。(553万円)

◎ 競輪場、車券売場の屋根改修

(社)全国競輪施行者協議会と言う会に入っていて、そこから、今回補助金を受け、第1・2投票所、いわゆる物産まつり会場に当る所の古い可動 TENT を、ドーム風の TENT に替えて、空調と明るさを改善する。(4千411万円)



【古賀教育部長】(武雄小) 学校の要望も聞きながらカベの塗り替え等やって行きたい。

6月議会

長崎新幹線はどうなる

私は、この問題について、1月の通信では、賛否を決めていないことを報告していた。

3月の議会に、商工会議所を中心とする区長会・婦人会などの各種団体より、新幹線推進の意見書提出の請願が出てきて、その採択があり、私も賛否を明確にせねばならない状況になった。

私の判断

結果は賛成したのですが、理由は、次の2点からです。

①今回の新幹線整備の予算は、現新幹線をJRに売却した代金で、使わなければ、他の北海道や北陸新幹線整備に、まわされ、国に帰るものでなく、財務省も別資金との見方で、無だ使いに当たらない。

②新幹線に伴ない、肥前山口口武雄間の複線化が図れることにより単線で信号待ち時間のロスや、万一の大震災の時、別線での復旧が早急にできる。

また、当然、長崎へ行くのは便利になるが、西川登地区からは、嬉野温泉駅も利用できるし、高校再編の関係で、嬉野高校への進学が増える可能性もあり、バス通学より、電車が便利とも考えられる。

一方、メリットがあれば、デメリットもある。特に気にしたのは、①特急料金の値上げ問題で、木下佐賀市長も問題視していた。県の答えでは、値上げはない模様、②地元負担で、特に武雄市の負担であるが、明確に示されていないが、鳥栖の例から推測すると、用途地域を通る分の約10%で、やむをえない範囲ではないかと思う。

以上の理由で賛成はするものの着工は、長崎本線沿線自治体が握っている。

ところで、県と長崎本線存続期成会との話し合いを、傍聴に行くが

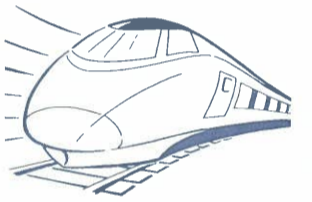
「費用対効果」の水かけ論が、毎回繰り返し、先へ進まない。

ただ、スーパー特急方式は、1. 1の効果と云うが、厳密に計算すると1を下まわること確認し、県は、ならば、フリーゲージ方式なら1・8の効果があり、少なくとも、1以上になるとの方針で、最近急にフリーゲージが、新聞等の報道によく出て来るわけです。

私の考える推進策

ただ、同期成会の自治体のねらいも、江北町は、フル規格新幹線に昇格し、肥前山口に特急が止らなくなることへ心配。太良は、鉄道が通らなくなる心配。鹿島市は、特急や代替ローカル鉄道の将来の赤字補填や廃止への心配。にあるわけで、武雄市が、本気で新幹線を推進したいのであれば、県に、

いわゆる「地域振興策」長崎県の費用負担、3セク・ローカル線の具体案、フル規格放棄の覚書締結、などの反対自治体の納得する、案を早く作るように、強く求めることが、最大の推進策と思う。



そして、鹿島市長の言う「大なる田舎づくり」に、長崎本線と県の振興策のどちらが、役どころかの判断を鹿島市民にしてみたい。



7月20日の会合で、鹿島市長が急に県の振興策を聞き初めた。良い方向へ進む事を望む。

知っていますか？ ゴミ広域化計画

結論から言うと、県の将来のゴミの処理は、東部・中部・北部そして、武雄市などの西部の4地区で、広域的に行う計画です。

そして、その西部地区では、杵藤地区17万人・有田地区2万人・伊万里地区6万人の計25万人分を処理するとしてあり、焼却施設は3年後の平成20年度までに作り、平成21年度から使用する予定です。

しかし、目標

年度は、間近ですが、市民レベルの話題にはなっていない、協議の状況も、各自自治体の課長レベルの話し合いが、3回程度もたれている程度です。

その原因は、ゴミ焼却施設が、いわゆる迷惑施設との意識があったり、主体的・積極的などの自治体も動かないからと思われる。

また、伊万里市は、焼却施設が耐用年数に近づいている関係からやむなく事務局を引き受け、リードしてありますが、他の杵藤・有田地区の焼却施設が、しばらく余裕があるから、意識にづれがあります。また、悲しいかな、伊万里市が、切羽詰まって、独自に処理施設を作る場合、国に提出した県の広域化計画がある為に、建設の補助金がもらえない可能性があり、実際に困っている現状です。

また、焼いた灰の埋立処分場は、約19万㎡分の内、現在8万㎡分の残余があり、1年間に約6千㎡埋立てているので、残り13年は大丈夫と言っていることになる。

杵藤地区クリーンセンター	有田地区クリーンセンター	伊万里市環境センター
H元年築 16時間運転 46 t/日 3 炉	H 7 年築 8 時間運転 12 t/日 2 炉	H57年築 16時間運転 30 t/日 2 炉

制作後記と今後のプラン

今議会、浄化槽市町村整備の実施を提案し、古庄市長に決断してもらった。ただ、この通信で市に多くの提案したことは書いていますが、市に実施してもらったことは、市報にのると思い書かなかった。ここで、実施してもらったことへ、お礼も込めて、紹介すると、まず、小中学校の給食の牛乳パックのリサイクル・御船が丘小の防音間仕切設置は、前教育長・部長時に予算化した。乳ガンのマンモグラフィ実施、市検診の日程の一部改良、献血のホームページ掲載は、健康増進課の女性課長・係長の敏速な対応で実現した。

一方、8月には、建設委員会で行行政視察に、兵庫県相生市に、入札改革を調査に行く。9月からは、水道問題に本格的に取り組む。

男女共同参画の本丸は 合併改選にあり！ 50%夢ではない

市は、平成7年の行革で、女性や若者の積極的登用を打ち出し、また、平成12年度には、男女共同参画計画策定懇話会を発足させ、その後、同市民会議を組織し推進している。

ただ、私の見方では、イベントや講演会など啓発的な内容が中心であり、具体的に進めるには、ルール作りや、システム作りが重要だと思ってい

もであるが、越せない壁ではない。そこで、来年、対等合併をするので、委員会等が、すべて改選される。男女共同参画推進には、めったにないチャンスである。

そこで、一般質問で、新市になって、ルール決めでは、混乱し、現状から改革できずに終わる心配もある。だから、合併前に、30%と言わず、50%を目標とするぐらいのしくみ作りを、取り組むべきとの提案をした。市長は、現在、協議会の部会でも話し合っているし、基本計画も作る予定との答えなので、今回を本丸せめと見定めて、女性の方の結束と行動を期待し、私もできる限りの協力をする覚悟である。

実行が最大の啓発！